

コースコード：RH-DO288

税込価格：277,200円 (税抜価格：252,000円)

日数：4日間

ここに注目!!

受講対象者

このトレーニングはこのような方におすすめです。

ソフトウェア開発者

ソフトウェアアーキテクト

前提条件/前提知識

このコースを受講する前に受講者が習得しておく必要がある知識およびスキルは次のとおりです。

Red Hat OpenShift I: Containers & Kubernetes (DO188)
を受講済み、または同等の知識があることが推奨されます。

無料のスキルチェック (<https://www.redhat.com/rhtapps/assessment/>)
でこのコースが自分のスキルに適切かどうかを確認してください。

目的

このコースを修了すると次のことができるようになります。

このコースでは、既存アプリケーションの OpenShift への移行や新しいクラウドネイティブ・アプリケーションの開発を行うアプリケーション開発者を対象に、コンテナ化アプリケーションの設計、構築、デプロイに不可欠なスキルを提供します。コンテナベースのアーキテクチャを使用して DevOps の潜在的な可能性を実証することで、組織的な変革およびデジタル・トランスフォーメーションへの突破口を開きます。

開発者が MVP (実用最小限の製品)

の市場投入までの時間をどのようにして短縮するかを模索する中で、コンテナと OpenShift は、瞬く間にアジャイル開発とアプリケーション・デプロイメントのデファクト・ソリューションになりました。コンテナベースのアーキテクチャを Kubernetes および Red Hat OpenShift と連携させると、アプリケーションの信頼性とスケーラビリティが向上するとともに、開発者のオーバーヘッドが減少し、継続的デプロイメントが促進されます。Red Hat OpenShift では、Red Hat OpenShift Service on AWS (ROSA) を使用して AWS で、Azure Red Hat OpenShift を使用して Microsoft Azure で、パブリッククラウドまたは顧客のデータセンター環境で実行されるセルフマネージド型の Red Hat OpenShift Container Platform として、これらのアプリケーションを一貫して開発およびデプロイする機能を提供します。

このコースはお客様にメリットをもたらすように作られていますが、個々の会社やインフラストラクチャの特徴は異なるため、実際に得られる利点には差異が生じることがあります。

Red Hat OpenShift Container Platform のアプリケーションのコンテナ化、スケーリング、



デプロイ、管理の基本概念を学ぶことができます。以下のスキルを習得できます。

アプリケーションをコンテナ化するためのコンテナイメージの設計

コンテナを構築、デプロイ、管理するさまざまな方法

マルチコンテナ・アプリケーションのデプロイ

システムの信頼性向上を目的としたヘルスチェックの実施

継続的デリバリーのための自動化パイプラインの作成と実行

アウトライン

開発者向け Red Hat OpenShift Container Platform

Red Hat OpenShift のアーキテクチャ、概念、用語を定義し、開発者環境を設定します。

シンプルなアプリケーションのデプロイ

Red Hat OpenShift Web

コンソールとコマンドラインツールを使用して、シンプルなアプリケーションをデプロイします。

Red Hat OpenShift のコンテナイメージをビルドして公開する

コンテナレジストリを使用して、コンテナイメージのライフサイクルを構築、デプロイ、管理します。

Red Hat OpenShift ビルドの管理

Red Hat OpenShift のビルドプロセスについて説明し、コンテナイメージをビルドします。

Red Hat OpenShift デプロイメントの管理

Red Hat OpenShift のさまざまなデプロイメント戦略と、アプリケーションの状態を監視する方法について説明します。

マルチコンテナ・アプリケーションのデプロイ

Red Hat OpenShift テンプレート、Helm Chart と Kustomize

を使用してマルチコンテナ・アプリケーションをデプロイします。

Red Hat OpenShift Pipelines を使用した継続的デプロイ

Red Hat OpenShift Pipelines を使用して CI/CD ワークフローを実装します。

注：学習内容は、テクノロジーの進歩や対象業務の性質の変化に伴って変更されることがあります。